

## ICAR2012に参加して

派遣国名：オーストリア共和国

派遣期間：2012.7.3～2012.7.10

学会名：The 23<sup>rd</sup> International Conference on *Arabidopsis* Research (ICAR2012)

平成24年7月3日から7日まで、オーストリア共和国ウィーンのホーフブルク王宮に於いて開催された国際会議「The 23<sup>rd</sup> International Conference on *Arabidopsis* Research (ICAR2012)」に参加しました。この会議は、毎年世界各国から1000人前後が参加する、植物科学分野の中で最も権威ある国際会議の1つで、モデル植物であるシロイヌナズナを用いた最新の研究成果が発表されます。私は、赤色光応答の制御メカニズムに関するポスター発表を行いました。赤色光は、植物にとって光合成に重要な光成分であるだけでなく、体の形作りに大きな影響を与える環境因子としても知られています。今回の発表は、この環境因子としての情報が細胞内においてどのように伝達されているか、ということに対して新たな提言を行うものでした。そのため反論を受けることも承知でしたが、ポスターを見に来て頂いた方には納得して帰って頂くことができました。しかし、発表会場の照明がシャンデリアということで会場が暗く、ポスターに載せた写真が見づらく残念でした。恐らくこれ以下の環境は滅多にないと思いますが、この経験を今後の発表に活かしたいと思います。

\* \* \* \* \*



ICAR2012が開催されたホーフブルク王宮の舞踏場。ポスター発表も同会場で行われた。



Plant RNA Workshopが行われた研究所の周辺施設。新しい研究施設が多く、ビル建設も多く行われていた。

続いて7月8日には、ウィーン市内の分子生物学研究所(IMB)内で開催されたPlant RNA Workshop(ICAR2012の関連集会)に参加しました。ICAR2012での私の発表はRNAを介した制御機構に関するものでしたので、近い研究成果が発表されたこの集会では、今後の研究に役立つ情報を多く得ることができました。この集会には参加登録を現地で行うつもりで向かいましたが、現地での登録ができず愕然としました。よく聞くと、発表を聴くのは良いとのことでした。さらに、ポスター発表の際に空きスペースを見つけたので主催者と交渉したところ、登録なしに関わらず早くポスター発表を許可して頂くという、なかなか無い経験までさせて頂きました。

\* \* \* \* \*

海外で開催される学会への初めての参加で、さらに一人であるということもあり、行くまで色々と憂慮しましたが、自信をもってやれば何とかなるものだと、自分の内の壁を壊すことができました。しかしながら、今回の学会参加を通して英語でのコミュニケーションの大切さを実感しましたので、今後はさらに力をつけ、広く研究活動に活かしていきたいと思えます。

本国際会議への参加に当たりご支援を頂きました、JSPS 組織的な若手研究者海外派遣プログラム並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。